

日々の祈り

2021年3月29日(月)~4月3日(土)

受難週

宮崎中部教会



<はじめに>

それぞれの日々の生活の中で、神さまに心を向け、御言葉を聞き、祈りをもって過ごしましょう。教会のために、兄弟姉妹のために、隣人のために、祈りを合わせましょう。

<使い方>

毎日の御言葉を、可能であれば声に出して、二回以上読んでみましょう。御言葉をじっくりと味わい、聖霊に導かれるまに、祈りの時をもちましょう。

<今週の祈りの課題>

- ・受難週です。わたしたちの罪を赦すために、十字架の苦しみと死を受け入れて下さったイエスさまを日々覚えましょう。
- ・苦しみや悲しみ、困難の中にあるすべての方々に、御苦しみを負って下さった主の慰めがあるように。
- ・わたしたちが神さまと隣人に心から仕える者となるように。

29日(月)

ルカによる福音書 12章 56~57節

偽善者よ、このように空や地の模様を見分けることは知っているのに、どうして今の時を見分けることを知らないのか。あなたがたは、何が正しいかを、どうして自分で判断しないのか。

昨日の御言葉を思い巡らしましょう。わたしたちは、今の時を見分け、正しいことを判断しなければなりません。わたしたちは今、わたしを訴えようとする者と共に、裁きをなさる神さまの御前に向かって歩んでいる途中です。そして今、自分では償えない罪のために、イエスさまがご自分の命を差し出して下さったことを知らされています。今の時、わたしたちは、この方の御言葉に聞き従うべき時であり、また、隣を歩む者と「仲直り」をすべき時にあるのです。

30日(火)

詩編 23編 1~3節

主は羊飼い、わたしには何も欠けることがない。

主はわたしを青草の原に休ませ／憩いの水のほとりに伴い魂を生き返らせてくださる。主は御名にふさわしく／わたしを正しい道に導かれる。

次の主日礼拝の御言葉です。主はわたしの羊飼い。イエスさまが、わたしたちを命がけで守り、養い、導いて下さるお方です。この方は、わたしを正しい道に導かれます。それは、道徳や倫理的なことではありません。神さまとの正しい関係の中で歩いていく道、ということです。そこにこそ、豊かな青草の原があり、憩いの水があり、魂が生き返らせられる、まことの命の道があるのです。

31日(水)

ヨハネによる福音書 11章 25~27節

イエスは言われた。「わたしは復活であり、命である。わたしを信じる者は、死んでも生きる。生きていてわたしを信じる者はだれも、決して死ぬことはない。このことを信じるか。」マルタは言った。「はい、主よ、あなたが世に来られるはずの神の子、メシアであるとわたしは信じております。」

次の主日礼拝の御言葉です。マルタは兄弟のラザロを亡くしたばかりです。死に直面し、なす術もないマルタに、イエスさまは語りかけられます。「わたしは復活であり、命である。」わたしたちがただ覆われ、立ち尽くすしかなかった死の中に、神の御子イエスさまは来て下さり、十字架の苦しみと死によって、復活へ至る道、命へ至る道を切り拓いて下さいました。この方の歩まれた後に従うならば、わたしたちもこの方と共に、死から復活・命へと至ることが出来ます。「このことを信じるか。」

1日(木)洗足木曜日

ヨハネによる福音書 13章 1節

さて、過越祭の前のことである。イエスは、この世から父のもとへ移る御自分の時が来たことを悟り、世にいる弟子たちを愛して、この上なく愛し抜かれた。

十字架前夜のイエスさまです。イエスさまは、世にいる弟子たちを愛して、この上なく愛し抜かれた。この弟子たちの中に、わたしたちもいます。イエスさまは、わたしを愛し抜いて下さった。この後、奴隷が主人に仕えるかのように、イエスさまが弟子たちの足を洗われます。そして弟子たちの、わたしたちの罪の赦しのために、苦しみを受け、十字架に架かられます。これこそ、神の御子がわたしをこの上なく愛し抜いて下さったお姿です。

2日(金)受難日

マルコによる福音書 15章 34節

三時にイエスは大声で叫ばれた。「エロイ、エロイ、レマ、サバクタニ。」これは、「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」という意味である。

イエスさまの十字架の死を覚える受難日です。神の御子であるイエスさまが、鞭打たれ、唾を吐かれ、侮辱され、そして十字架の上で叫ばれました。「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」。人のあらゆる苦しみ、絶望、嘆きを、この方はすべて背負われました。わたしたちの罪と死と絶望の只中に、イエスさまは身を置かれました。この方こそ「インマヌエル」、わたしたちと共にいて下さる神です。

3日(土)

マルコによる福音書 15章 46~47節

ヨセフは亜麻布を買い、イエスを十字架から降ろしてその布で巻き、岩を掘って作った墓の中に納め、墓の入り口には石を転がしておいた。マグダラのマリアとヨセの母マリアとは、イエスの遺体を納めた場所を見つめていた。

復活の日の前に、イエスさまが墓の中で過ごされた土曜日があります。イエスさまは息を引き取られ、布で体をくるまれ、墓に納められ、葬られました。最も深い死の闇の底に身を横たえられました。この方よりも深い所に降った者はいません。そして弟子たちは絶望し、嘆き、恐れていました。この墓の土曜日があったことを、わたしたちは忘れないでいたいのです。しかし、この最も低く暗いところにこそ、神の力が働かれ、主の甦りと昇天が、そして弟子たちの救いと悔い改めが、慰めと希望が、備えられたのです。

聖句：日本聖書協会『聖書 新共同訳』